



令和3年 新年のご挨拶

いちき串木野市医師会 会長 花牟禮 康生先生

P2・3

看護師特定行為研修について……………P4・5

ビジネスチャットツールのススメ……………P6・7

今さら聞けない感染予防……………P8・9

地域医療を支える 医師会会員病院紹介……………P10・11

みんなの掲示板……………P12



令和3年

新年のご挨拶

あけまして

おめでとうございます

いちき串木野市医師会会長

花牟禮 康生

昨年は、新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、その対応に追われた大変な一年でした。今年もまた、その動向に目を離すことができないようです。この感染症の影響は、私たち医療に携わる者だけでなく様々なところに及び、今までの社会の在り方を根本的に変えていく必要性さえ感じられるほどです。

いちき串木野市は高齢化率が高く、感染症対策だけでなく、様々な疾病への予防や対策が必要なのはご承知の通りです。介護への取り組みも重要なのは言うまでもありません。

私たち医師会の各会員は行政と協力しながら、これまで医療と

介護の連携事業を継続して参りました。

そして、その中で中心的な役割を果たしてきたのが、医師会立脳神経外科センターです。昭和62年以来、鹿児島大学脳神経外科教室（吉元 幸司教授）の強力なサポートをいただきながら、脳血管疾患の専門病院として、地域医療での重要な役割を果たしてきました。

現在、コロナ禍で、日本中の医療機関に多様な影響が出ていますし、未来の明確な予想ができない状況です。しかし、医療や介護は今後も堅持していかなければなりません。

今後もセンターの運営には医師会が全面的に協力する所存ですので、皆様のご支持をお願いいたします。

世界中の人にとって、今年が素晴らしい年でありますように。



看護師特定行為 研修について

いちき串木野市医師会立脳神経外科センター
訪問看護ステーションさくら 看護師 小田 望



2019年から2020年にかけて看護師特定行為研修を受講し、創傷管理関連、栄養水分関連、ろう孔管理関連の研修を終了しました。

特定行為研修を受講した理由は、自身の知識や技術を高めるだけでなく、利用者の負担軽減や夜間対応などで活かせるのではないかと考えたからです。研修では、臨床推論やフィジカルアセスメントなどの共通科目から、医学的な視点での考え方を学びました。e-ラーニングで共通科目を履修後、創傷管理関連やろう孔管理関連等の知識、実習を通して技術を学びました。指導医や先生方の丁寧な指導を受け、臨床での様々な事例や考え方を学び、安全に安楽に適切な医療行為を行うことの大切さを改めて感じました。

特定行為とは

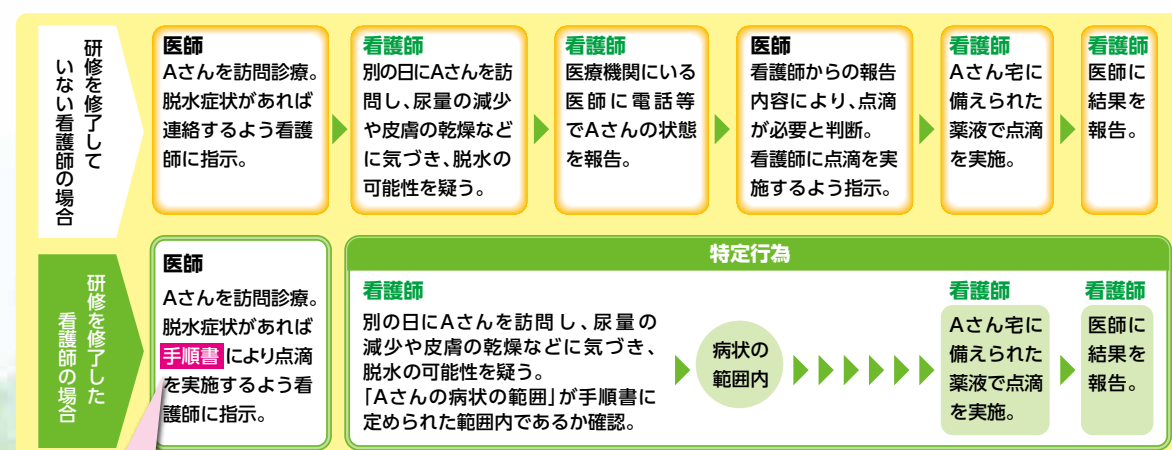
特定行為とは、実践的な理解力や、判断能力のほか、専門知識や技術をもって行う診療補助を指します。研修を修了することで、研修を受ける前は患者の状態や変化を医師に一回一回報告をし、判断を待っていたものが、手順書をもとに看護師の判断で特定行為を行えるようになります。

特定行為実践の流れ

特定行為を実施する為には、主治医の手順書作成が必要です。手順書は、対象の患者、患者の病状の範囲、診療の補助内容、連絡体制、医師への報告の方法など6項目を記載します。それらの手順書に添い、看護師が実践します。

在宅では病院のように医師が同じ建物内にいないという側面から、より安全に実施する為、利用者個人に合わせて、主治医と密に打ち合わせをしたものが必要になります。

図 特定行為の実践の流れ(在宅療養中に脱水を繰り返す患者Aさんの例)



- 手順書の記載項目
1. 患者の病状の範囲
 2. 診療の補助の内容
 3. 対象となる患者
 4. 特定行為を行うときの確認事項
 5. 医師との連絡体制
 6. 特定行為の後の医師への報告方法

(図表とも厚労省資料より作成)

特定行為でできること

私が特定行為でできることを紹介します。

傷管理関連：血流のない壊死組織のデブリードマン（外科的除去）や陰圧閉鎖療法を実施することができます。

栄養水分管理関連：脱水の患者の補液、高カロリー輸液の調整等ができることとなります。在宅でのこの分野は、高齢者は特に複数疾患を持ち、病態も異なることや主治医の治療方針などもあり、より具体的な手順書が必要になるのではないかと考えています。

ろう孔管理関連：胃ろうボタン交換、膀胱ろうカテーテル交換ができるようになりました。実際に、在宅では、訪問診療や病院を受診して胃ろうボタンを交換されています。胃ろう造設されている方は介護度が高い方が多く、受診が大変な方もおられます。訪問診療の合間で胃ろうボタン交換をされる医師も多く、看護師が胃ろうボタンを交換することで、利用者の受診の負担軽減や、微力ながらも多忙な医師の業務が減らせるのではないかと思います。

看護師ができることが増え、幅が広がることで、より利用者のニーズに応えることができるのではないかと思います。

私は、研修を終えたばかりで、実際の活動はこれからですが、今後、特定行為実践を実践することで、より患者や家族が安心して生活でき、負担軽減となるようにしたいです。また、地域医療を支える看護師となるように努力をしたいと考えています。そのためには、より安全で適切な特定行為を行うことが、利用者の安心や質の高い医療や看護を提供することにつながると考えます。自己研鑽を継続しながら、医師をはじめ、多職種と情報共有し、連携をはかりながら特定行為を実践していきたいです。

最後に、特定行為研修受講の会を頂きました、いちき串木野市医師会立脳神経外科センターのスタッフ及び、ご指導頂きました研修センターの皆様に感謝いたします。

事業所紹介

「いちき串木野市医師会立脳神経外科センター訪問看護ステーションさくら」

行動指針「やさしく・強く・おもしろく」優しさを優先し、専門職として強さを持ち、自分自身も楽しむ。

一緒に働く仲間が、助け合い協働していく、温かいステーションです。地域の専門職の方々と連携し、「生きることの支援」を実践します。地域の訪問看護を必要とされているすべての方に、訪問看護を届けます。

ビジネスチャットツールのススメ

当センターでは、医療情報委員会からの発信にてデジタルツールの活用とデジタルトランスフォーメーション推進に倣い“Chatwork”を活用したスタッフの円滑な情報共有、緊急連絡(BCP対応)、院外他業種との連携に役立たせています。



以前の緊急連絡方法

メール

電話連絡



デメリット

1. メール配信は、発信者が病院のパソコン上でしか操作できない。
2. 各スタッフのメールアドレス変更にタイムリーに送信管理者・受信側が対応できなければならない。
3. 電話連絡は、最終確認までにタイムラグが発生してしまう。

デメリット解消のためにChatworkを導入



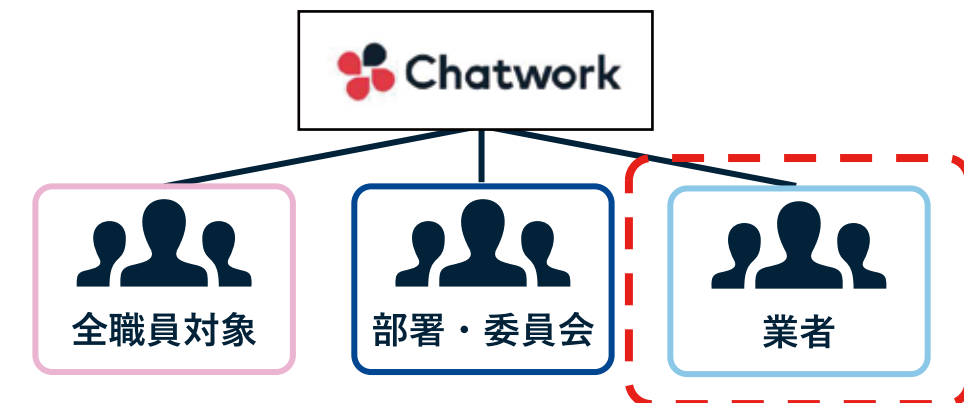
Chatwork利用について

Chatwork導入目的

- 1 緊急災害時でのスタッフの安否確認・緊急参集
- 2 患者様離院の際のスタッフ周知・緊急参集要請
- 3 リスク面での院内からの非出勤者への広報(感染症などの周知/広報)
- 4 全職員対象とした一般事務連絡など

その他の活用事例

- 1 病院職員グループ以外にも取引業者との連絡・連携にも活用



- 2 コロナ禍におけるリモート会議にも活用！



+



今さら聞けない

感染予防

新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は、「手洗い」や「マスクの着用」です。

マスクを着用する前に

大抵のマスクはノーズ部分にワイヤーが入っているので、上下が分かるとは思いますがプリーツのひだが下を向いている方が表面（外側）！

プリーツのひだが上向きだと、プリーツの段差部分に空気中のホコリやゴミがたまります。せっかく気を付けてマスク着用しているので、台無しにならないよう着用してください！



正しいマスクの着用



手洗い

ドアノブや電車のつり革など様々なものに触れることにより、自分の手にもウイルスが付着している可能性があります。
外出先からの帰宅時や**調理の前後**、**食事前**などこまめに手を洗います。

正しい手の洗い方

手洗いの前に
・爪は短く切っておきましょう
・時計や指輪は外しておきましょう



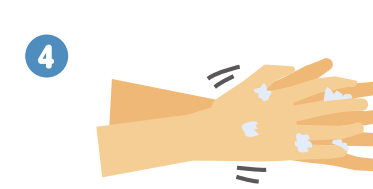
流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。



手の甲をのぼすようにこすります。



指先・爪の間を念入りにこすります。



指の間を洗います。



親指と手のひらをねじり洗いします。



手首も忘れずに洗います。

石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

出典：首相官邸ホームページ (<https://www.kantei.go.jp>)
「咳エチケット」「手洗い」チラシを加工して作成。



医師会会員病院紹介

地域医療機関との相互連携を一層密に、医療を必要とする患者さんのニーズに応え、適切で切れ目のない医療提供の実現を目指しています。

医療法人 勝目眼科



◆ 眼科

理事長 / 勝目 紀一
住 所 / いちき串木野市元町 200 番地
電 話 / 0996-32-2237
診療時間 / 【月・火・水・金】
午前 9:00～12:00
午後 14:00～18:00
【木・土】
午前 9:00～12:00
午後休診
休 診 日 / 祝日、木・土曜午後

診療案内

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午 前	○	○	○	○	○	○	×
午 後	○	○	○	×	○	×	×

当院は、串木野の元町商店街の一角にある開業して73年になる眼科です。

昭和22年に先代の勝目三人が開院、わたくしが継承して、昭和55年にコンタクトレンズ部と眼鏡部を隣設し40年が過ぎました。

その間平成22年に有床設備は休床し、現在は外来診療のみ行っています。私達の日常は視覚に頼っており、目のトラブルは思った以上に生活に支障をきたします。普段から目のケアに注意し、異常を感じたらすぐに眼科医に相談することが大切です。

当院では患者様のお一人お一人の体調や生活に配慮した心のこもった診療を心掛けています。特に白内障手術をはじめとして、内眼手術の必要な患者様は関連病院と協力しながら対応するように心掛けておりますので、お気軽に御相談下さい。

これからも地域の方々との触れ合いを大切に多くの方々に親しまれるような診療所を目指して職員一同で前進してまいります。

えんでん内科クリニック



◆ 内科・小児科 他

院 長 / 海江田 正史
住 所 / いちき串木野市東塩田町 35 番地
電 話 / 0996-32-7000
診療時間 / 【月・火・木・金】
午前 8:30～12:30
午後 13:30～17:30
【水】
午前 8:30～12:30
午後休診
【土】
午前 8:30～12:30
午後 13:30～15:30
休 診 日 / 日、祝、お盆、年末年始

診療案内

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午 前	○	○	○	○	○	○	×
午 後	○	○	×	○	○	15:30まで	×

当院の理念・方針

☆理念

地域とともに歩む医療

～愛と誇りをもって信頼されるクリニックを目指します～

☆基本方針

- ①患者様や家族とともに取り組む医療
- ②職員がともに尊重しあい協力して行うチーム医療

☆基本方針

- ①患者様のかかりつけ医として地域に貢献します。
- ②患者様の権利を尊重しプライバシーの保護に努めます。
- ③人材育成に取り組み愛のある医療を提供します。

医療法人あさひ会 金子病院



◆ 外科・胃腸科・肛門科・呼吸器科・ 放射線科・内科・リハビリテーション科

理事長 / 金子 洋一
院 長 / 松本 正隆
住 所 / いちき串木野市照島 6002 番地
電 話 / 0996-33-0011
診療時間 / 【月・火・水・木・金】
午前 9:00～12:30
午後 14:00～18:00
※午後は手術等で変動しますので、お電話にてご確認をお願い致します。
【土】
午前 9:00～12:30
休 診 日 / 土曜午後、日、祝

診療案内

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午 前	○	○	○	○	○	○	×
午 後	○	○	○	○	○	×	×

当院は平成4年11月開院の病床数44床の急性期病院です。乳腺・甲状腺および一般・消化器外科(食道・胃・大腸肛門・肝胆膵・ヘルニアなど)を中心に診療を行うとともに、救急医療や生活習慣病・感染症治療、高齢者医療、一般健診などの地域に根差した診療も数多く行っております。近年は従来の開腹手術に加え、内視鏡を用いた侵襲の少ない腹腔鏡手術が増加し、また種々のがんに対する化学療法やターミナルケアも充実させて地域完結型のがん診療を目指しております。さらにいちき串木野市はもとより、鹿児島市、日置市、薩摩川内市など多方面から紹介患者も増加しており、各医療機関とも一層の連携を深めているところです。平成11年9月には鹿児島市荒田町に金子クリニック(乳腺・甲状腺専門)を開院しております。

当院は日本外科学会、日本がん検診診断学会、日本乳癌学会の施設認定を受けるとともに、日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会などの各種専門医及び皮膚・排泄ケア(褥瘡などの創傷管理やストーマなどの排泄管理)、がん化学療法の認定看護師が常勤し、より専門性の高い医療を提供しております。

医療法人 照正会 京町内科・脳神経クリニック



◆ 内科・神経内科

院 長 / 宮之原 正和
住 所 / いちき串木野市京町 43
電 話 / 0996-32-2855
診療時間 / 【月・火・水・金】
午前 8:30～12:30
午後 13:30～17:30
【木・土】
午前 8:30～12:30
午後休診
休 診 日 / 日、祝、木曜・土曜午後
ホームページ / <http://www.kyomachiclinic.jp>

診療案内

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午 前	○	○	○	○	○	○	×
午 後	○	○	○	×	○	×	×

開院してから18年が経ちました。一般内科と神経内科を中心に地域医療を行ってきました。

当地には医師会立脳神経外科センターという急性期脳神経疾患医療を行う施設がありますが当院はそのプライマリーケアとなるべく役割、また急性期・慢性期の医療を終えて在宅復帰された方の後方支援クリニックの位置づけにあると考え日々診療を行っています。

当院の主診療科は神経内科で脳卒中後遺症を中心に、パーキンソン病、脊髄小脳変性症などの通院可能な神経難病の方や頭痛、めまい、ふらつき、手足のしびれ・脱力などの脳神経症状を有する方の診療を行っています。

その他、地元住民の方のかかりつけ医として生活習慣病、感染症、健診、予防接種、往診に加え頸部・肩・腰・上下肢の運動器異常に対して外来物理療法も取り入れ地域の方の生活向上に役立つよう努めています。

関連疾患、症状、各事項に対してお気軽に御相談ください。

みんなの掲示板

クリスマス会

今年は新型コロナウイルスにより、皆が我慢を強いられた1年でした。当院も面会禁止となりどこか閉塞感漂う中、我が回復期病棟主治医の大濱医師の「患者様に何か普段と違った楽しさを提供したい！」の一声から、感染対策に留意しながら12月22日、Xmas会を開催しました。

当日は、4人の仲の良い患者様にご協力を頂き、可愛いXmasケーキが仕上がりました。また看護師による麗しのフラダンス、リハビリスタッフのトランペット＆クラリネット演奏によるXmasメドレー！等の催しも行われました。私たちが一番見たいのは患者様の喜ぶ笑顔です。今回は笑顔をたくさん見ることができ、スタッフ一同嬉しく思いました。先の見えないコロナ禍でご家族と会う機会を作ることができない状況ですが、リハビリを日々懸命に頑張る患者様の支えとなれるよう、職員一同頑張っていきたいと改めて思うXmas会でした。

